

2014年7月17日

報道関係各位

学校法人成城学園

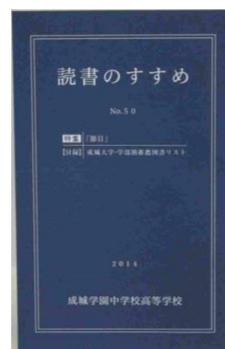
成城学園が50年間続けている「読書」教育の取組

毎年約100冊、累計約5000冊の本を生徒に紹介してきた

「読書のすすめ」50年目！第50号を発行

～「三省堂書店」とコラボレーションして地域にも「読書のすすめ」～

学校法人成城学園（東京都世田谷区 理事長：渡 文明）は、読書の習慣づけを重視した創立者・澤柳政太郎の教育方針に基づき、中学校高等学校において1965年（昭和40年）より、教員が自分たちで、生徒に読んでもらいたい本を選びエッセイをつけて約100冊紹介する「読書のすすめ」を毎年夏休み前に発行しています。今年も、50年目の第50号を発行し、約100冊を紹介し、50年で累計約5000冊を紹介したことになります。今回は発行50年を記念して、地域と協働する活動の一環として、いままでも成城学園の生徒にのみに配布されていた本書を地域に公開し「三省堂書店成城店」で、期間限定「読書のすすめ」特設コーナーを8月1日（金）より設置いたします。



《成城学園の「読書のすすめ」とは》

創立以来、成城学園では「読書」の習慣づけを重視しています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1回「読書」の時間にあてています。「読書のすすめ」も「読書」の教育の一環で、毎年1つのテーマに沿って、成城学園中学校高等学校のさまざまな教科の教員が生徒に読んでもらいたい本を選びエッセイを執筆し約100冊の本を紹介する書籍です。夏休み前に全生徒に配布されます。今年50年目の50号にふさわしく「節目」がテーマです。過去には著名人から寄稿もあり、「読書のすすめ」第2号には、小説家であり評論家の大岡昇平が「私の読書法」というタイトルで寄稿しています。



「節目」のテーマにちなんで
教員が執筆したエッセイの一部

《50年の歴史で初の試み！地域の皆様にも「読書のすすめ」！》

～三省堂書店成城店に「読書のすすめ」特設コーナーを設置～

いままで、「読書のすすめ」は教員の手づくりで生徒のために発刊してきましたが、生徒以外のご父母からも大変好評だったこともあり、**50年の節目を迎え、地域と協働する成城学園の活動の一環として、地域の皆様や学校外の方にも「読書のすすめ」を活用していただきたいと考え、地域の主要書店である「三省堂書店成城店」にお願いをして、「読書のすすめ」特設コーナーを設置していただくことになりました。**「読書のすすめ」第50号の中から57冊と中学高等学校の図書委員がすすめる49冊を展示販売する期間限定のコーナーとなります。期間は2014年8月1日～8月31日を予定しています。

本件に関するお問い合わせ

学校法人成城学園 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

企画広報部 TEL 03-3482-1092 FAX03-3482-1489 HP www.seijogakuen.ed.jp/

E-mail kikaku@seijo.jp

《成城学園の「読書のすすめ」発刊のきっかけ》

「読書のすすめ」は、そもそも昭和40年当時の成城学園高等学校の校長であった穂積重正先生が、下村寅太郎著「西田幾多郎一人と思想」の中に出てくる、京都一中（旧制中学）で配布されていた「読書の葉」に大変感銘を受けて、つくられるようになったものです。「読書の葉」は、28ページほどの小冊子で、西田幾多郎、河上肇、小島悠馬、というような後に日本の学界を指導した人達が「読書の手引き」を書き、終わりに何冊かの推薦図書がそえられているものだったようです。

《成城学園の読書教育の伝統》

成城学園の創立者・澤柳政太郎は、その著書『学修法』の中で、読書について、「学生は、学校の授業のほかに余暇を利用して広く本を読むことをしなければならない。（中略）学生時代に読書の習慣を作らない者は、学校卒業後、学問を継続することは非常に困難になってしまう」と述べています。卒業後も学問を続けるには、学生時代の読書の習慣が不可欠だという創立者・澤柳政太郎の考えに基づき、成城学園では伝統的に読書の習慣づけを重視しており、初等学校では国語以外に「読書」の時間を設け、中学では、国語の授業を週1で「読書」の時間にあてています。50年間続いている「読書のすすめ」もその一つです。

《現在の成城学園の読書教育の実践》

《初等学校》 初等学校では「読書」の時間を設置しています。国語の延長としてではなく、場所（図書室）と時間（読書の時間）と教材（本）を保証し、子どもたちが自主的に読書を行う環境を整えています。3年生は週に1時間、4年生は隔週1時間の「読書」の時間を設置。5、6年生は週に3回、朝の時間（10分間）に朝読書を実施。

《幼稚園》 教員による日常の読み聞かせのほか、初等学校の児童による読み聞かせも行っています。児童とペアを組んで、じっくりと本を読んでもらうことによって、読書への興味を喚起する機会となっています。

《中学校》 1、2年生は週に1時間、国語の授業を「読書」の時間にあてています。



〈初等学校〉 読書の時間



〈幼稚園〉 初等学校児童による読み聞かせ